



二子玉川

学校だより 第4号
令和8年7月1日
世田谷区立二子玉川小学校
校長 森田 賢

笑顔あふれる毎日を

副校長 家本 咲子

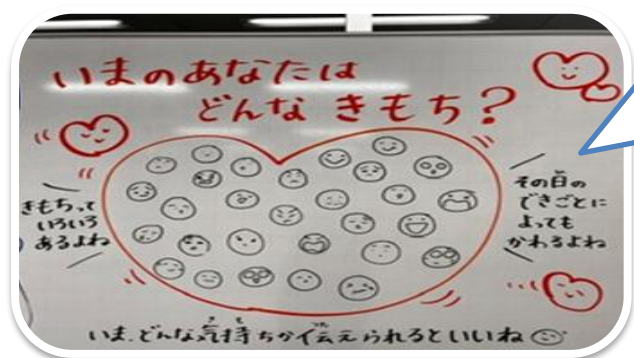
子どもは300～400回。大人はその20分の1の15～20回。一体、何の数字でしょう。

これは、1日に笑う平均回数だそうです。ある研修会で教えていただいた話です。子どもたちは平均300回以上も笑うのに対し、大人はたったの15回。考えたこともなかったの、その数字に衝撃を受けました。子どもと大人でそんなに違いがあるのかと。

たしかに、子どもたちはよく笑います。何かを見つけては友達とコロコロとよく笑い、名前を呼ぶとニコニコと笑顔を見せてくれます。笑っている時の子どもたちはとにかく幸せそうなのです。きっと1日が終わる頃には「ああ、今日も楽しかったな」とぐっすり眠る、それが子どもたちの毎日なのかもしれません。

それに対して、平均15回しか笑わない大人である私たち。たしかに、言われてみるとそうかもしれません。笑うより先に悩み、考える。気がつけば眉間にシワを寄せてパソコンに向かう。ひたすら目的地に向かって歩く。いつの間にか日が暮れる。家に帰ったら今夜の献立に悩み、食べ終わった食器を無心で洗う。1日が終わるころには、凝った肩をぐるぐると回しながら「ああ、今日も疲れたな」が口癖になっているかも。

アメリカの作家であり、実業家でもあるデール・カーネギー（1888-1955）は、著書の中で「笑顔による10の効力」として、笑顔は「元手がいらぬ。しかも利益は莫大」「与えても減らず、与えられたものは豊かになる」ということ、人間関係の構築において、笑顔は欠かせないもので、「無償で与えて、はじめて値打ちが出る」ということを述べています。子どもたちが与えてくれる笑顔には、私たちに安心や癒しをもたらす効果があります。子どもたちの300回もの笑いが、大人を元気に、心豊かにしてくれていることは間違いありません。では、1日15回程度しか笑わないという私たち大人は、果たして子どもたちに安心をもたらしているのでしょうか。子どもたちには笑顔でいてほしい、と大抵の大人はそう言います。でも、大人にも笑っていてほしいと子どもたちは願っています。当然ながら、笑っている顔が好きだし、そして一緒にげらげら笑ってくれることを望んでいます。大人が笑う1日の平均回数が、今の2倍、3倍（…いやもっとも）になれば、子どもたちが生きる未来は安心して明るいものになるかもしれません。そんなことを考えた夏の始まりでした。



養護教諭が毎日ホワイトボードに子どもたちへのメッセージを書いています。左のメッセージは、6月26日（金）のものです。「いまのあなたはどんなきもち？」という問いかけ。子どもたちはどんな気持ちで毎日を過ごしているのでしょうか。みんなが笑顔のにっこりマークだったら嬉しいですね。

みなさんは今、どんな気持ちですか？

7月を迎え、1学期も残りわずかとなりました。保護者の皆様、地域の皆様にも支えていただきながら、子どもたちが1学期の終業式までたくさんの笑顔で過ごせるよう教職員一同サポートしていきます。